

広酪TMR利用者対象意見交換会 (9/24 三次ロイヤルホテル)

## 意見交換 より良いTMR飼料づくりを目指して



広酪は、広酪製造飼料利用者及び関係団体・指導機関との意見交換を図るため、「広酪TMR利用者対象意見交換会」を開催し、関係者を含め21名が出席した。

広酪からは①TMR飼料の特徴と給与方法・給与量の実態、②TMR利用者からのクレームと対処、③TMR飼料原料の飼料イネ調達と給与メニュー等の説明とともに意見交換を行った。

### 1 TMR飼料の特徴

TMR飼料は粗飼料と濃厚飼料を牛の要求する適正な割合に混合した飼料であり、その基本は不断給餌による飽食状態に置くことにある。しかし、今回の説明会において、広酪においては分離給与における制限給与が多数を占めると報告を行った。

給与実態は、利用者の内、不断給餌による管理が2割で、残る8割は不断給餌とは異なる実態にあり、係留牛舎における労働体系を考慮すれば制限給与となる

ことは仕方無いが不断給餌を基本とする考え方の中で「広酪TMR給与体系飼養管理表」による使用をお願いした。

### ■ TMR利用者と給与量の状況

TMR給与量	戸数	構成率
10 kg未満	5戸	13.9%
10 kg以上 15 kg未満	3戸	8.3%
15 kg以上 20 kg未満	8戸	22.2%
20 kg以上 25 kg未満	9戸	25.0%
25 kg以上 30 kg未満	4戸	11.1%
30 kg以上 35 kg未満	7戸	19.4%
合計	36戸	100%

### 2 クレーム発生とその対処

多数を占めたのは側面のラップ損傷面からのカビ発生と製品による発酵のムラであった。製品側面の損傷については改善対策により昨今は減少するものの組合としては発生ゼロを目指し対策を講じていくことを伝えた。

### 3 今後の飼料イネの製品における導入利用

今年度確保出来る予定数量より、次年度は全製品に通年4t当たりWCS1ロールを使用する。

今回の意見・要望を参考にしてより良い製品づくりに取り組んでいきたい。

## 「e酪農経営SaaS」サービス提供開始 「DMS 合同研修会」

(10/14 本所会議室)

DMSシステム(酪農家経営管理支援システム)のインターネット版サービス「e酪農経営SaaS(サーズ)」の利用開始の方針を受けて、全酪連・広酪・(一社)広島県畜産協会の職員を対象とする合同研修会を開催した。

講師は全酪連の丹戸靖氏(購買部酪農生産指導室 課長代理)で、「SaaSとは何か」、「SaaS化がなぜ必要な

のか」、「今後の移行方法」等の説明を受け、実際にインターネットを介して、それぞれがパソコンで「e酪農経営SaaS」を体験した。

インターネットを経由することから、従来のソフトウェアよりも、登録作業に若干の待機時間があるものの、この特徴は比較的スムーズな入力や最新のプログラム、OS変更対策、データ管理の面で利用者メリットが向上する点にある。

今回の「e酪農経営SaaS」を含めたDMSシステムについて、今後、組合員向けの説明会を開催する予定である。

(※関連記事 本誌14頁)

